

# にぎわい 224号

～日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～

十年に一度 **絢爛豪華大船行列** ～370年の歴史～

渡御祭 2019年5月18日(土) 中日祭 2019年5月22日(水) 還御祭 2019年5月26日(日)

まつえじょうざんいなりじんじゃしきねんしんこうさい  
松江 城山 稲荷 神社 式年 神幸 祭は、広く「ホーランエンヤ」という名で親しまれ、稲荷神社に祀られた御神霊を約10キロ離れた松江市東端・東出雲町の阿太加夜神社に船でお運びし、一週間にわたって五穀豊穡や市民の幸福を祈願し、再び稲荷神社にお帰りになる ふなとぎよさい 船渡御祭です。今から370年前のある年、出雲の国は天候不順で稲作などの不作が予想され、大変心配された松江藩主松平直政公が豊作を祈願させたところ、願いが成就しました。以来、御神幸が10年から12年毎に行われていましたが、今回から再び10年に一度に戻されました。



## 船行列の由来



かいでんません  
權伝馬船が神輿船の曳き船を務めるようになったのは、直政公の入府から170年後の文化5年(1808年)馬潟沖で神輿船が暴風雨のため危険になったのを当時の馬潟村の漁師が助けに出て阿太加夜神社まで、無事に送り届けたことに始まります。その後、4地区が10年ごとに加わり、馬潟・矢田・大井・福富・大海崎の5地区が絢爛豪華に飾りたてた權伝馬船でお供をします。

## みどころ

### 權伝馬船



ホーランエンヤの花形は權伝馬船です。「正一位稲荷大明神」の幟など色とりどりの旗で船を飾ります。船上には、そろいのはっぴ、水先案内の早助、音頭取り、權をあやつる漕手、踊る劍權と采振り、これを統率する伝馬長、50余名の人々の晴れの舞台。

### 船の舳で舞う劍權



歌舞伎のような衣装に腰には相撲のような横綱と化粧まわしをつけた踊り子(劍權)が、劍の形をした權を持ち、唄や太鼓に合わせ勇壮に踊ります。この華やかな衣装や鬘は五大地でそれぞれ異なり競い合います。この權は樫や桜の木でつくられており、長さは約1mあります。

## 樽の上で舞う采振



采振りは、采という長さ 55 cm くらいの竹の先に 30 cm 程度の七色の布か民芸紙を重ねつけた物を持って、櫂伝馬船の艫で踊ります。明治時代は、まだ男姿で踊っていましたが、剣櫂が歌舞伎を真似て華やかさを添えたのではないかとされています。

お問い合わせ

伝統・ホーランエンヤ協賛会

松江市中原町 5 松江市役所第 2 別館 4 階

電話 0852-24-1112 FAX 0852-24-1113